

小型動力ポンプ取扱訓練

公園の防火水槽や防災資器材庫などに設置されている小型動力ポンプですが、いざという時使用できるように訓練しておくことが重要です

1 ねらい

消防職員や消防団員が火災現場で使用するホース・ポンプなどを使って放水訓練を実施し、いざというときに使えるよう技術を習得する、また放水の体験をすることにより、訓練の必要性への理解を深めます。

2 必要スタッフ（参加人員30名程度の目安）

4人～（消防職員、消防団員、市民防災リーダーなど）

3 必要なもの（参加人員30名程度の目安）

（品目）	（数量）
動力消防ポンプ	1
50ミリホース	2～必要数
ノズル（筒先）	1
水源（1～2トン簡易水槽）	1（川や池の水の使用も可能）
標的（必要に応じてボールを落とす的など）	必要数



ワンポイントアドバイス

女性だけで放水することも可能ですので、ぜひ訓練参加者全員に放水体験を実施していただきましょう。（事故防止には十分注意しましょう）

4 子どもと一緒に楽しみながら

標的などを使用することにより、子どもたちも含めてゲーム感覚で楽しみながら模擬消火体験をすることができます。

- (1) 複数の的を用意し、全部の的に命中するのに何秒かかるかを競争します。
- (2) 広い場所で放水訓練を実施する場合は、どのくらい遠くまで水が届くのか見てみましょう。



壁面のシートを的に見立てて

5 進め方

① 事前準備

事前に水源を準備します。（簡易水槽や水深の浅い川をせき止めて利用するなど）ポンプ、ホース、ノズルの準備、燃料の確認、的の準備も必要です。

② 事前説明

- 小型動力ポンプは、消火器で消火できないような火災に使用できる。

はずれないよう確実につなぐ



- ポンプや機材の保管場所、水源の位置などを把握する。
- ノズルやホースの伸ばし方、つなぎ方、はずし方を学ぶ。
- 動力ポンプのエンジンのかけ方、水の出し方を学ぶ。
- 放水する時の注意点として、放水時の反動が強く危険ですので、放水体勢をしっかりととり、放水を実施しましょう。

③ 訓練実施

- 4人で一組になり、放水員、ポンプ員に分かれポンプのエンジンをかけホースを伸ばし放水体勢を取ります。(最初は水を出さないようにしてください。)
- 必要に応じて水を出さない訓練を何度か実施します。
- 実際に放水を実施する。(女性や子供の場合は人数を調整してください。)

①吸管を水源につなぎ ②エンジンをかけ ③真空ポンプにて揚水 ④ホース・ノズルを繋ぎ ⑤放水



- 10秒程度放水(的に命中)すれば、次のグループと交代します。
- 役割を交代して再度放水訓練を実施する。

※放水時の反動力に充分注意し、絶対にノズルを放してはいけません。ノズルを放すと大ケガになることがあります。必ずスタッフが放水員の補助につきましょう。

ワンポイントアドバイス

市民の方が使用する消防ポンプは、主に下記のものであります。

種類	放水能力	設置場所	水源	備考
C-1	1分間に 350ℓ	耐震防火水槽 など	防火水槽、河川、池、 消火栓、プールなど	防火水槽は施設されています。 かぎを確認しておきましょう。



※この他にD-1級のひと回り小さなポンプを保有している地域もあります。ホースのサイズなどが違いますので、使い方などに疑問がある場合は消防署にご相談ください。

参加者の方へ・・・

☆ホースの長さは1本20メートルです。ホースをつなぎ合わせることによって、水源から遠いところまで放水することができます。

☆遠くなったり、エンジンの音などで、放水するタイミングも声では届きません。

「放水はじめ」「放水やめ」のジェスチャーも覚えておくと役に立ちます。

※この合図は全国で同じ合図になっています。

(右図参照)

放水はじめ!

放水やめ!



☆普段からエンジンのかかり具合や資機材を点検し、水源の位置を確認しておきましょう。